

平成 23 年度 第 6 回 CCC 社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成 24 年 1 月 20 日 (金) 午後 2 時から午後 4 時まで

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 津田委員、土屋委員、奥村委員

(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

学士力の実現に求められる教育改善モデルについて、授業の点検・評価・改善および教員の教育力に関する検討。具体的には、前回までに作成した教育改善モデルに、「授業の点検・評価・改善」について補足する。

(1) 教育改善モデル 1 の検討

・ 委員によるプレゼンテーション

基礎演習の改善方法について。通常、演習では履修者が少数のため、授業評価アンケートを実施しないことが多いが、全クラスにおいて実施する。合同での研究発表会により、他のクラスとの連繋が可能になるばかりでなく、暗黙のうちにクラス間での比較が可能になり、改善が期待できる。

教員と学生との間に位置しているという点で TA からのフィードバックも点検、評価、改善には有用である。また、TA が大学院生である場合には、将来に向けてのトレーニングともなる。

研究会に外部の人間を招くことも考えられる。外部コメンテーターの視点による評価も点検、評価、改善には有用である。また、インカレゼミのような形態も考えられる。これらの試みを通じて、学部全体での情報共有が求められる。しかし、実施する規模が大きくなることで形骸化しやすくなる点にも注意する必要がある。

・ 委員のコメント

情報共有をしにくい立場にいる非常勤教員に対するケアが必要ではないか。

→非常勤教員も含めたメーリングリストを設置すれば良いのではないか

・ 委員のコメント

研究途上の経過を他のクラスからも見えるようにすれば、競争意識によってモチベーションが上がり、効果の上昇も期待できるのではないか。また、教員間の信頼関係をどうやって構築するかが重要になる。ワーキング・グループを設置し、どのような共通テーマを設定するのか、そのテーマが良かったかの点検などを行うことも必要になる。

→上記の議論に基づき、教育改善モデル 1 に「点検・評価・改善」を追加

3. 授業の点検・評価・改善

この授業では、受講生による評価のみならず、ファシリテーターによるフィードバック、教室の枠を超えた学生・教員間の連携を、点検・評価・改善の視点とする。その際、テーマ設定や進行、教員間の情報共有の場を設けるとともに、履修後の学習状況を検証することで、点検・評価・改善の実効性を高める。また、他大学教員や専門家などの外部コメンテーターや大学間コンソーシアムとの意見交換を通じて、教員・学生の視点の相対化を図るとともに、適切な緊張感を保った授業運営を目指す。

(2) 教育改善モデル2の検討

・ 委員のコメント

このモデルでは断片化された授業間の連繋ができていないか、社会に具体的な提言を発信し、それが社会から評価を受けているかが「点検・評価・改善」として見なすことができるのではないかと考えられる。評価軸としては、仕組みとしての使い勝手と外部評価に耐えうるか否かということが考えられる。

最終的な成果物で見るとはならないか。評価主体としては、学生の相互評価、複数の教員、社会が考えられる。

・ 委員のコメント

このモデルでは提言をするときにポートフォリオを使い、振り返りをしながら総合的にまとめる、ということになっている。それをどのようにして「点検・評価・改善」するかと言えば、振り返りが適切に行われたか、総合化がうまくできたか、提案（アウトプット）が陳腐化するのが早かったか否か、といったことが評価軸になるのではないかと考えられる。学生が振り返るとすれば、相互チェックというやり方は考えられる。

・ 委員のコメント

何が「適切」なのかを決めるのが難しいのではないかと考えられる。

上記の議論に基づき、教育改善モデル2に「点検・評価・改善」を追加

3. 授業の点検・評価・改善

この授業では、複数の教員による評価、学生の相互評価、社会からの評価をもって、4年間の学習内容の振り返り・総合化とそれを踏まえた提言の適切さについて検証することを点検・評価・改善の視点とする。その際、ICTを用いて一定の期間、学内外に学習成果を公開して評価を求める。その結果をもとに、複数の学生及び教員で意見交換を行う場を設け、学習ポートフォリオとそれを通じた振り返りの仕組みを改善する。

今後の予定

次回の委員会については平成24年4月以降に開催し、授業モデルを実現するための教育力（教員の教育力、社会学の専門性）を中心に検討する予定。

以上